

平成29年 結核登録者情報調査年報集計結果について

当該年報は、平成29年1月1日から同年12月31日の間に、新たに登録された結核患者及び潜在性結核感染症(LTBI)の者と、平成29年12月31日現在に登録されているすべての登録者に関する状況について、感染症サーベイランスシステム(NESID)上の結核登録者情報システムに全国の保健所から入力されたものを、「結核登録者情報調査年報」として取りまとめたものである。

～表ごとの解説～

【表1 諸外国と日本の結核罹患率について】

平成29年の結核罹患率（人口10万対）は13.3であり、前年と比べ0.6ポイント減少している。

日本の結核罹患率は近隣アジア諸国に比べ低い水準にあり、米国等の先進国の水準に年々近づいている。

【表2 結核罹患率の都道府県別おもな順位について】

都道府県別の結核罹患率（人口10万対）は、大阪府、長崎県、東京都、兵庫県、徳島県の順に高く、宮城県、福島県、山形県、秋田県、長野県の順に低くなっている。大阪府の結核罹患率は21.3であり、同府の中でも大阪市の罹患率が最も高く、32.4となっている。（表2、表7-2）

【表3 結核の死亡数及び死亡率の年次推移について】

平成29年の結核による死亡数は2,303人（概数）で、前年の1,892人に比べ411人増加している。この大幅な増加は、平成29年より人口動態統計における死因統計に使用する分類を変更したことに伴い、死因を選択する統計上のルールも変更された影響が含まれている。死亡率（人口10万対）も1.5から1.8に増加したが、死因順位は28位から30位と順位を下げている。

【表4 新登録結核患者数及び罹患率の年次推移について】

- (1) 平成29年に、新たに結核患者として登録された者の数（新登録結核患者数）は16,789人で、前年より836人（4.7%）減少している。減少率を見ると、平成27年から平成28年にかけての減少率は3.6%（18,280人→17,625人）であることから、減少幅は1.1ポイント大きくなっている。（表4-1）

- (2) 平成29年の罹患率（人口10万対）は13.3であり、前年の13.9より0.6(4.3%)減少している。減少率を見ると、平成27年から平成28年にかけての減少率は3.5%であることから、減少幅は0.8ポイント大きくなっている。（表4-1、図1）
- (3) 菌喀痰塗抹陽性肺結核の患者数は6,359人で、前年より283人（4.3%）減少している。（表4-2）
- (4) 菌喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率（人口10万対）は5.0であり、前年の5.2より0.2減少している。菌喀痰塗抹陽性肺結核の患者が全体に占める割合は37.9%で、前年と比べて0.2ポイント増加している。（表4-2）

【表5 年次別・年齢階級別 新登録結核患者数および潜在性結核感染症新登録者数について】

- (1) 年齢階級別の新登録結核患者数では、0～14歳の小児結核は59人で前年と同数となっている。0～4歳と90歳以上を除いた年齢層では、患者数は減少している。80～89歳で最も大きい316人の減少となったが、90歳以上では48人の増加となっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80～89歳が28.7%と最も多くなっているが、平成26年以降減少傾向となっている。一方、90歳以上では11.3%となっており、増加傾向にある。（表5-1）
- (2) 年齢階級別の菌喀痰塗抹陽性肺結核新登録患者数は、0～14歳の小児結核は4人で前年から1人の増加となっている。15歳以上の年齢層では、20～29歳では7人の増加、30～39歳で23人の増加となっている。その他の年齢層では減少となっているが、減少幅は80～89歳が最も大きく、220人の減少となっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80～89歳が31.4%と最も大きくなっている。（表5-2）
- (3) 平成29年に登録された小児結核患者（15歳未満）のうち、重症結核例である粟粒結核及び結核性髄膜炎患者数は4人（0歳3人、14歳1人）であったが、うち1人（0歳）は粟粒結核と結核性髄膜炎の併発であった。（表5-3）
- (4) 平成29年に新たに登録された潜在性結核感染症の者の数は7,255人で、前年より222人の減少となっている。年齢階級別では、9歳以下と70歳以上の年齢階級で増加、その他の年齢階級で減少と

なっている。増加は70～79歳が最も大きく153人の増加となっている。減少は50～59歳で最も大きく150人の減少となっている。
(表5-4)

(5) 新登録結核患者数に対する潜在性結核感染症新登録者数の比は、14歳以下が4以上となっており、潜在性結核感染症新登録患者数の方が多くなっている。15歳以上では、いずれも1未満となっており、新登録結核患者数の方が多くなっている。
(表5-5)

(6) 職業別では、全体の潜在性結核感染症新登録者数に占める医療職の割合が、前年の24.9%から24.6%に減少している。一方、無職・その他が全体に占める割合は、前年の27.9%から29.5%に増加しており、平成25年の17.0%から1.7倍の増加となっている。(表5-6)

(7) 外国生まれ新登録結核患者数は、前年から192人増加して1,530人となり、新登録結核患者に占める割合は9.1%となっている。新登録患者数が最も増加したのは30～39歳であり、前年から91人増加し、349人となっている。また、20～29歳の新登録結核患者における外国生まれの者の割合も前年から5.2ポイントの増加し、62.9%となっている。(表5-7)

(8) 外国生まれ新登録結核患者のうち、入国5年以内の者は、前年の608人から130人増加し738人となっている。特に20～29歳の年齢階級では、前年から59人増加し、491人となっている。
(表5-8)

【表6 年次別・年齢階級別 結核罹患率について】

(1) 年齢階級別の結核罹患率は、高齢層ほど高く、60～69歳で11.4、70～79歳で22.0、80～89歳で55.5、90歳以上では92.7となっている。(表6-1)

(2) 菌喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率も、同様に、高齢層ほど高くなっている。70歳代までは10未満だが、80～89歳で23.0、90歳以上では42.1となっている。(表6-2)

【表7 新登録結核患者数及び結核罹患率 都道府県別・年次推移について】

- (1) 都道府県別の新登録結核患者数は、47都道府県のうち19の県で増加している。新登録結核患者数が最も多いのは東京都の2,213人で、次いで大阪府の1,881人となっている。(表7-1)
- (2) 都道府県別の結核罹患率は、47都道府県のうち21の府県で増加している。一方、結核低まん延の水準である罹患率が10を下回った県は、前年と同数の10県となっている。最も低い宮城県の結核罹患率は7.2となっている。(表7-2)

【表8 年末時結核登録者数及び有病率の年次推移について】

平成29年末現在の結核登録者数は39,670人と、前年の42,299人より2,629人減少している。そのうち、活動性全結核の患者数は11,097人と、前年より620人減少している。また、平成29年末の結核有病率は、前年の9.2から0.4減少し、8.8となっている。(表8)

【表9～表14 新登録結核患者の疫学的特徴について】

<再治療者>

平成29年新登録結核患者のうちの再治療者は、前年の908人から69人減少して839人となっている。このうち、前回治療年が2000年以降の者は526人で、さらに2010年以降の者が432人と再治療者のうち51.5%となっている。(表9)

<発見の遅れ>

- (ア) 平成29年の新登録肺結核患者のうち有症状の者の中で、受診が遅れた(症状発現から受診までの期間が2か月以上)患者の割合は、20.8%となり、平成14年以降で最高となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、受診が遅れた患者の割合は35.0%となっている。(表10-1)
- (イ) 診断が遅れた(受診から結核の診断までの期間が1か月以上)患者の割合は、21.7%となっている。(表10-2)
- (ウ) 発見が遅れた(症状発現から結核の診断までの期間が3か月以上)患者の割合は、21.2%となっている。(表10-3)

<薬剤耐性>

平成29年の新登録肺結核培養陽性結核患者9,580人のうち、薬剤感受性検査結果が判明した者は7,891人で、割合は82.4%となり、初めて80%を越えた値となっている。このうち、多剤耐性肺結核患者数(INH,RFP両剤耐性の者)は52人で、前年より3人増加となっている。新登録肺結核培養陽性結核患者の多剤耐性結核割合は0.5%となっている。また、薬剤感受性検査結果が判明した者のうち、主要4剤(HRSE)全ての薬剤に対し感受性のある患者の割合は88.5%となっている。(表11)

<糖尿病、HIV合併>

平成29年の新登録結核患者のうち、糖尿病合併患者は2,368人で、新登録結核患者の14.1%となっている。また、HIV検査を実施した患者は1,488人で、新登録結核患者の8.9%にあたり、このうちHIV陽性は34人で、新登録結核患者の0.2%となっている。(表12)

<医療従事者>

(ア) 平成29年の新登録結核患者のうち、看護師・保健師からの登録患者は216人で、昨年の191人から25人の増加となっている。新登録結核患者のうちの割合は1.3%となっている。年齢階級別では、30～39歳の層が最も多く、同年齢階級新登録結核患者の6.0%となっている。(表13-1)

(イ) 平成29年の新登録結核患者のうち、医師の登録患者は38人で、新登録結核患者の0.2%となっている。年齢階級別の割合では、30～59歳で、同年齢階級新登録結核患者の0.5～0.6%となっている。(表13-2)

(ウ) 平成29年の新登録結核患者のうち、理学療法士、作業療法士、検査技師、放射線技師など、看護師・保健師・医師以外の者で医療機関に勤務する者の登録患者数は280人で昨年の231人から49人の増加となり、新登録結核患者のうちの割合は1.7%となっている。年齢階級別では、30～39歳における割合が最も大きく、同年齢階級新登録結核患者の6.5%となっている。(表13-3)

<無職臨時日雇など>

平成29年の新登録結核患者のうち、登録時の年齢が20～59歳であり、登録時の職業が無職臨時日雇等であった者は878人で、昨年の1,105人から227人減少している。新登録結核患者のうちの割合も18.9%となっている。年齢階級別での患者数は、高齢層ほど多くなっており、55～59歳で

は、同年齢階級の26.7%を占めている。

また、男性の患者に占める無職臨時日雇等の者の割合は55～59歳が最も割合が大きく、25.9%となっているが、昨年から7.6ポイント減少している。（表14-1、14-2）

表 1. 諸外国と日本の結核罹患率

国名	罹患率	年次
米 国	2.7	2016
カナダ	4.8	2016
デンマーク	5.1	2016
オランダ	5.2	2016
オーストラリア	5.7	2016
イタリア	6.4	2016
ドイツ	7.0	2016
スウェーデン	7.1	2016
フランス	7.2	2016
英 国	8.8	2016
日 本	13.3	2017
シンガポール	44	2016
中国	55	2016
韓国	72	2016
タイ	102	2016
ベトナム	108	2016
インドネシア	140	2016
フィリピン	322	2016

諸外国のデータは、下記より転記

“WHO TB burden estimates”

Downloaded WHO TB burden estimates [775kb]. Accessed 2018 Jul 23

<https://extranet.who.int/tme/generateCSV.asp?ds=estimates>

平成29年の結核罹患率（人口10万対）は13.3であり、前年と比べ0.6ポイント減少している。日本の結核罹患率は近隣アジア諸国に比べ低い水準にあり、米国等他の先進国の水準に年々近づいている。

表 2. 結核罹患率の都道府県別おもな順位

	都道府県名	罹患率
罹患率の低い5都道府県	宮 城	7.2
	福 島	7.3
	山 形	7.4
	秋 田	8.0
	長 野	8.1
罹患率の高い5都道府県	大 阪	21.3
	長 崎	16.8
	東 京	16.1
	兵 庫	15.9
	徳 島	15.9

同率の場合は小数点2位以下で順位を決定

都道府県別の結核罹患率（人口10万対）は、大阪府、長崎県、東京都、兵庫県、徳島県の順に高く、宮城県、福島県、山形県、秋田県、長野県の順に低くなっている。大阪府の結核罹患率は21.3であり、同府の中でも大阪市の罹患率が最も高く、32.4となっている。

表3. 結核の死亡数及び死亡率の年次推移

年次	死亡順位	死亡数	死亡率
昭和25年	1位	121,769	146.4
" 30年	5位	46,735	52.3
" 35年	7位	31,959	34.2
" 40年	7位	22,366	22.8
" 45年	8位	15,899	15.4
" 50年	10位	10,567	9.5
" 55年	13位	6,439	5.5
" 60年	16位	4,692	3.9
平成元年	18位	3,527	2.9
" 2年	17位	3,664	3.0
" 3年	20位	3,325	2.7
" 4年	21位	3,347	2.7
" 5年	21位	3,249	2.6
" 6年	23位	3,094	2.5
" 7年	23位	3,178	2.6
" 8年	22位	2,858	2.3
" 9年	22位	2,742	2.2
" 10年	22位	2,795	2.2
" 11年	21位	2,935	2.3
" 12年	24位	2,656	2.1
" 13年	25位	2,491	2.0
" 14年	25位	2,317	1.8
" 15年	25位	2,337	1.9
" 16年	25位	2,330	1.8
" 17年	25位	2,296	1.8
" 18年	26位	2,269	1.8
" 19年	27位	2,194	1.7
" 20年	25位	2,220	1.8
" 21年	24位	2,159	1.7
" 22年	26位	2,129	1.7
" 23年	25位	2,166	1.7
" 24年	26位	2,110	1.7
" 25年	26位	2,087	1.7
" 26年	26位	2,100	1.7
" 27年	29位	1,956	1.6
" 28年	28位	1,892	1.5
" 29年	30位	2,303	1.8

(注) 死亡率は人口10万対

人口動態統計より。平成29年は概数。

平成29年より死因統計に使用する分類を変更したことに伴い、死因を選択する統計上のルールも変更された。死因別死亡数の一部にみられる数値の大幅な変化には、これらの影響による変動が含まれている(人口動態統計月報年計(概数)の概況より)。

平成29年の結核による死亡数は2,303人(概数)で、前年の1,892人に比べ411人増加している。この大幅な増加は、平成29年より人口動態統計における死因統計に使用する分類を変更したことに伴い、死因を選択する統計上のルールも変更された影響が含まれている。死亡率(人口10万対)も1.5から1.8に増加したが、死因順位は28位から30位と順位を下げている。

表4-1. 新登録結核患者数及び罹患率の年次推移

区 分	全結核（新分類）				全結核（旧分類）			
	実数／前年比		罹患率(人口10万対) ／前年比		実数／前年比		罹患率(人口10万対) ／前年比	
平成4年					48,956		39.3	
平成5年					47,437	△1,519	38.0	△1.3
平成6年					44,590	△2,847	35.7	△2.3
平成7年					43,078	△1,512	34.3	△1.4
平成8年					42,472	△606	33.7	△0.6
平成9年					42,715	243	33.9	0.2
平成10年	41,033		32.4		44,016	1,301	34.8	0.9
平成11年	43,818	2,785	34.6	2.2				
平成12年	39,384	△4,434	31.0	△3.6				
平成13年	35,489	△3,895	27.9	△3.1				
平成14年	32,828	△2,661	25.8	△2.1				
平成15年	31,638	△1,190	24.8	△1.0				
平成16年	29,736	△1,902	23.3	△1.5				
平成17年	28,319	△1,417	22.2	△1.1				
平成18年	26,384	△1,935	20.6	△1.6				
平成19年	25,311	△1,073	19.8	△0.8				
平成20年	24,760	△551	19.4	△0.4				
平成21年	24,170	△590	19.0	△0.4				
平成22年	23,261	△909	18.2	△0.8				
平成23年	22,681	△580	17.7	△0.5				
平成24年	21,283	△1,398	16.7	△1.0				
平成25年	20,495	△788	16.1	△0.6				
平成26年	19,615	△880	15.4	△0.7				
平成27年	18,280	△1,335	14.4	△1.0				
平成28年	17,625	△655	13.9	△0.5				
平成29年	16,789	△836	13.3	△0.6				

平成29年に、新たに結核患者として登録された者の数（新登録結核患者数）は16,789人で、前年より836人(4.7%)減少している。減少率を見ると、平成27年から平成28年にかけての減少率は3.6%（18,280人→17,625人）であることから、減少幅は1.1ポイント大きくなっている。

平成29年の罹患率（人口10万対）は13.3であり、前年の13.9より0.6(4.3%)減少している。減少率を見ると、平成27年から平成28年にかけての減少率は3.5%であることから、減少幅は0.8ポイント大きくなっている。

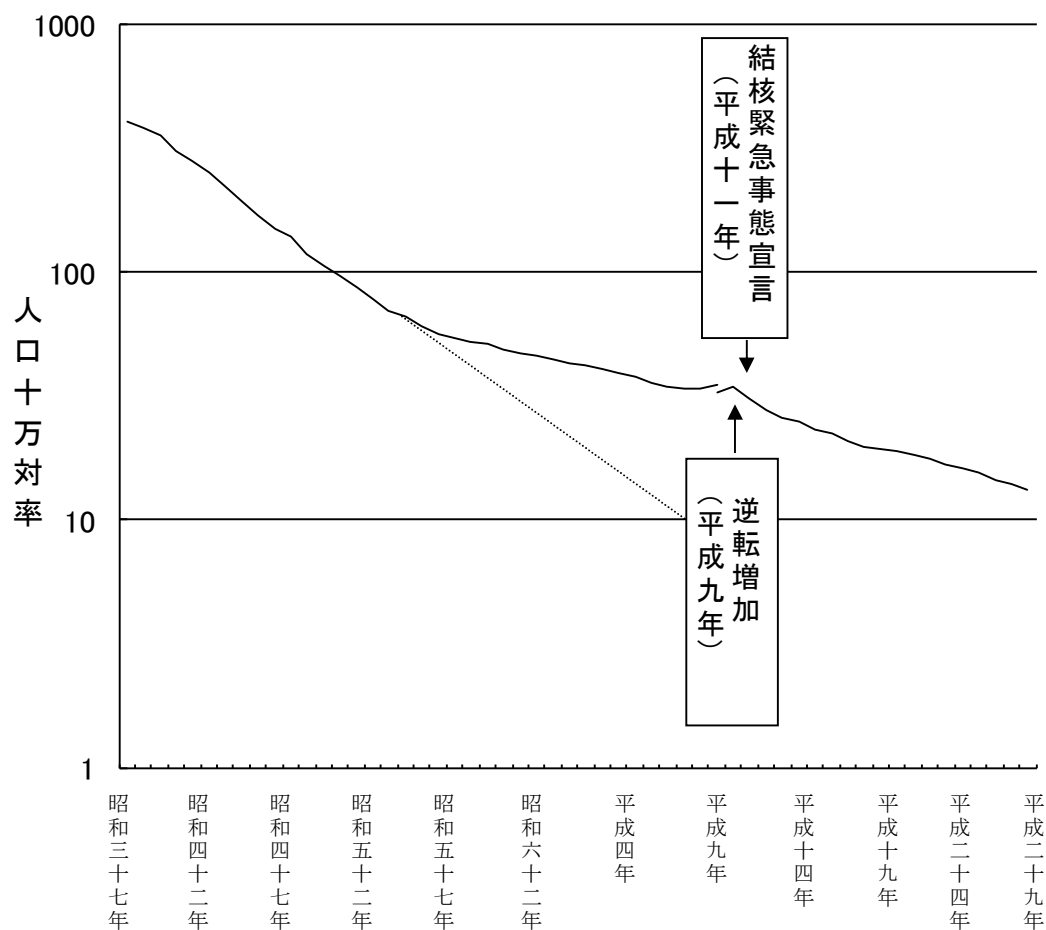
表4-2. 新登録結核患者及び罹患率の年次推移（菌喀痰塗抹陽性肺結核患者数、再掲）

区分	菌喀痰塗抹陽性肺結核(新分類) (再掲)		菌喀痰塗抹陽性患者の割合 (%/全結核)	菌塗抹陽性肺結核(旧分類) (再掲)		菌塗抹陽性患者の割合 (%/全結核)
	実数/前年比	罹患率 (人口10万対)/前年比		実数/前年比	罹患率 (人口10万対)/前年比	
平成4年				15,540	12.5	31.7
平成5年				15,210 Δ330	12.2 Δ0.3	32.1
平成6年				14,777 Δ433	11.8 Δ0.4	33.1
平成7年				15,103 326	12.0 0.2	35.1
平成8年				15,035 Δ68	11.9 Δ0.1	35.4
平成9年				15,967 932	12.7 0.8	37.4
平成10年	13,405	10.6	32.7	16,294 327	12.9 0.2	37.0
平成11年	14,482 1,077	11.4 0.8	33.1			
平成12年	13,220 Δ1,262	10.4 Δ1.0	33.6			
平成13年	12,656 Δ564	9.9 Δ0.5	35.7			
平成14年	11,933 Δ723	9.4 Δ0.5	36.4			
平成15年	11,857 Δ76	9.3 Δ0.1	37.5			
平成16年	11,445 Δ412	9.0 Δ0.3	38.5			
平成17年	11,318 Δ127	8.9 Δ0.1	40.0			
平成18年	10,492 Δ826	8.2 Δ0.7	39.8			
平成19年	10,204 Δ288	8.0 Δ0.2	40.3			
平成20年	9,809 Δ395	7.7 Δ0.3	39.6			
平成21年	9,675 Δ134	7.6 Δ0.1	40.0			
平成22年	9,019 Δ656	7.0 Δ0.6	38.8			
平成23年	8,654 Δ365	6.8 Δ0.2	38.2			
平成24年	8,237 Δ417	6.5 Δ0.3	38.7			
平成25年	8,119 Δ118	6.4 Δ0.1	39.6			
平成26年	7,651 Δ468	6.0 Δ0.4	39.0			
平成27年	7,131 Δ520	5.6 Δ0.4	39.0			
平成28年	6,642 Δ489	5.2 Δ0.4	37.7			
平成29年	6,359 Δ283	5.0 Δ0.2	37.9			

菌喀痰塗抹陽性肺結核の患者数は6,359人で、前年より283人（4.3%）減少している。

菌喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率（人口10万対）は5.0であり、前年の5.2より0.2減少している。菌喀痰塗抹陽性肺結核の患者が全体に占める割合は37.9%で、前年と比べて0.2ポイント増加している。

図1. 結核罹患率の推移(全結核)



平成29年の罹患率（人口10万対）は13.3であり、前年の13.9より0.6(4.3%)減少している。減少率を見ると、平成27年から平成28年にかけての減少率は3.5%であることから、減少幅は0.8ポイント大きくなっている。

表5-1. 年次別・年齢階級別 新登録結核患者数

() 内は構成比

区 分	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年
総 数	20,495 (100.0)	19,615 (100.0)	18,280 (100.0)	17,625 (100.0)	16,789 (100.0)
0～4歳	27 (0.1)	17 (0.1)	29 (0.2)	26 (0.1)	31 (0.2)
5～9歳	14 (0.1)	15 (0.1)	9 (0.0)	11 (0.1)	10 (0.1)
10～14歳	25 (0.1)	17 (0.1)	13 (0.1)	22 (0.1)	18 (0.1)
15～19歳	165 (0.8)	168 (0.9)	163 (0.9)	190 (1.1)	148 (0.9)
20～29歳	1,196 (5.8)	1,188 (6.1)	1,127 (6.2)	1,235 (7.0)	1,231 (7.3)
30～39歳	1,317 (6.4)	1,235 (6.3)	1,101 (6.0)	1,004 (5.7)	987 (5.9)
40～49歳	1,496 (7.3)	1,440 (7.3)	1,363 (7.5)	1,228 (7.0)	1,159 (6.9)
50～59歳	1,665 (8.1)	1,514 (7.7)	1,351 (7.4)	1,295 (7.3)	1,268 (7.6)
60～69歳	2,833 (13.8)	2,597 (13.2)	2,359 (12.9)	2,213 (12.6)	2,024 (12.1)
70～79歳	4,359 (21.3)	4,028 (20.5)	3,757 (20.6)	3,407 (19.3)	3,187 (19.0)
80～89歳	5,856 (28.6)	5,753 (29.3)	5,317 (29.1)	5,138 (29.2)	4,822 (28.7)
90歳以上	1,542 (7.5)	1,643 (8.4)	1,691 (9.3)	1,856 (10.5)	1,904 (11.3)

年齢階級別の新登録結核患者数では、0～14歳の小児結核は59人で前年と同数となっている。0～4歳と90歳以上を除いた年齢層では、患者数は減少している。80～89歳で最も大きい316人の減少となったが、90歳以上では48人の増加となっている。各年齢階層別で全体に占める割合は、80～89歳が28.7%と最も多くなっているが、平成26年以降減少傾向となっている。一方、90歳以上では11.3%となっており、増加傾向にある。

表5-2. 年次別・年齢階級別 菌喀痰塗抹陽性肺結核新登録患者数

() 内は構成比

区 分	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年
総 数	8,119 (100.0)	7,651 (100.0)	7,131 (100.0)	6,642 (100.0)	6,359 (100.0)
0～4歳	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.0)
5～9歳	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.0)
10～14歳	0 (0.0)	1 (0.0)	1 (0.0)	3 (0.0)	2 (0.0)
15～19歳	49 (0.6)	36 (0.5)	41 (0.6)	47 (0.7)	40 (0.6)
20～29歳	357 (4.4)	329 (4.3)	292 (4.1)	282 (4.2)	289 (4.5)
30～39歳	412 (5.1)	341 (4.5)	348 (4.9)	282 (4.2)	305 (4.8)
40～49歳	523 (6.4)	480 (6.3)	454 (6.4)	386 (5.8)	371 (5.8)
50～59歳	663 (8.2)	597 (7.8)	535 (7.5)	453 (6.8)	449 (7.1)
60～69歳	1,119 (13.8)	1,010 (13.2)	935 (13.1)	852 (12.8)	804 (12.6)
70～79歳	1,682 (20.7)	1,578 (20.6)	1,408 (19.7)	1,252 (18.8)	1,238 (19.5)
80～89歳	2,610 (32.1)	2,557 (33.4)	2,347 (32.9)	2,215 (33.3)	1,995 (31.4)
90歳以上	704 (8.7)	722 (9.4)	769 (10.8)	870 (13.1)	864 (13.6)

年齢階級別の菌喀痰塗抹陽性肺結核新登録患者数は、0～14歳の小児結核は4人で前年から1人の増加となっている。15歳以上の年齢層では、20～29歳では7人の増加、30～39歳で23人の増加となっている。その他の年齢層では減少となっているが、減少幅は80～89歳が最も大きく、220人の減少となっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80～89歳が31.4%と最も大きくなっている。

表 5 - 3. 年次別・年齢階級別 新登録小児結核中の粟粒結核および結核性髄膜炎患者数

区 分	平成 25年		平成 26年		平成 27年		平成 28年		平成 29年	
	粟粒結核	結核性髄膜炎	粟粒結核	結核性髄膜炎	粟粒結核	結核性髄膜炎	粟粒結核	結核性髄膜炎	粟粒結核	結核性髄膜炎
合計	0	2	2	5	1	1	1	2	3	2
0～4歳	0	2	1	2	0	1	1	2	3	1
5～9歳	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0
10～14歳	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1

合計は小児結核(0～14歳)の合計、粟粒結核と結核性髄膜炎の重複あり
平成29年患者の詳細

粟粒結核、結核性髄膜炎併発 0歳、日本出生1名、BCG接種歴あり。
粟粒結核 0歳、日本出生2名、BCG接種歴なし。
結核性髄膜炎 14歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

平成28年患者の詳細

粟粒結核、結核性髄膜炎併発 0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。
結核性髄膜炎 0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

平成27年患者の詳細

粟粒結核 12歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。
結核性髄膜炎 0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

平成26年患者の詳細

粟粒結核、結核性髄膜炎併発 0歳、日本出生1名、BCG接種歴なし。
粟粒結核 14歳、外国出生1名、BCG接種歴不明。
結核性髄膜炎 0歳、日本出生1名、BCG接種歴あり。
結核性髄膜炎 5歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。
結核性髄膜炎 9歳、日本出生1名、BCG接種歴あり。
結核性髄膜炎 9歳、外国出生1名、BCG接種歴あり。

平成 29 年に登録された小児結核患者（15 歳未満）のうち、重症結核例である粟粒結核及び結核性髄膜炎患者数は 4 人（0 歳 3 人、14 歳 1 人）であったが、うち 1 人（0 歳）は粟粒結核と結核性髄膜炎の併発であった。

表5-4. 年次別・年齢階級別 潜在性結核感染症（LTBI）新登録者数

（ ）内は構成比

区分	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年
総数	7,147 (100.0)	7,562 (100.0)	6,675 (100.0)	7,477 (100.0)	7,255 (100.0)
0～4歳	493 (6.9)	514 (6.8)	420 (6.3)	419 (5.6)	439 (6.1)
5～9歳	163 (2.3)	140 (1.9)	131 (2.0)	96 (1.3)	119 (1.6)
10～14歳	202 (2.8)	86 (1.1)	110 (1.6)	83 (1.1)	73 (1.0)
15～19歳	188 (2.6)	173 (2.3)	124 (1.9)	162 (2.2)	117 (1.6)
20～29歳	1,047 (14.6)	1,017 (13.4)	746 (11.2)	896 (12.0)	799 (11.0)
30～39歳	1,202 (16.8)	1,162 (15.4)	933 (14.0)	888 (11.9)	818 (11.3)
40～49歳	1,286 (18.0)	1,347 (17.8)	1,042 (15.6)	1,148 (15.4)	1,050 (14.5)
50～59歳	1,173 (16.4)	1,212 (16.0)	1,063 (15.9)	1,200 (16.0)	1,050 (14.5)
60～69歳	819 (11.5)	1,050 (13.9)	1,020 (15.3)	1,261 (16.9)	1,190 (16.4)
70～79歳	413 (5.8)	600 (7.9)	709 (10.6)	839 (11.2)	992 (13.7)
80歳以上	161 (2.3)	261 (3.5)	377 (5.6)	485 (6.5)	608 (8.4)

平成29年に新たに登録された潜在性結核感染症の者の数は7,255人で、前年より222人の減少となっている。年齢階級別では、9歳以下と70歳以上の年齢階級で増加、その他の年齢階級で減少となっている。増加は70～79歳が最も大きく153人の増加となっている。減少は50～59歳で最も大きく150人の減少となっている。

表5-5. 年次別・年齢階級別 新登録結核患者数に対する潜在性結核感染症（LTBI）
新登録者数の比

（比：潜在性結核感染症新登録者数／新登録結核患者数）

区分	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年
総数	0.3	0.4	0.4	0.4	0.4
0～4歳	18.3	30.2	14.5	16.1	14.2
5～9歳	11.6	9.3	14.6	8.7	11.9
10～14歳	8.1	5.1	8.5	3.8	4.1
15～19歳	1.1	1.0	0.8	0.9	0.8
20～29歳	0.9	0.9	0.7	0.7	0.6
30～39歳	0.9	0.9	0.8	0.9	0.8
40～49歳	0.9	0.9	0.8	0.9	0.9
50～59歳	0.7	0.8	0.8	0.9	0.8
60～69歳	0.3	0.4	0.4	0.6	0.6
70～79歳	0.1	0.1	0.2	0.2	0.3
80歳以上	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1

新登録結核患者数に対する潜在性結核感染症新登録者数の比は、14歳以下が4以上となっており、潜在性結核感染症新登録患者数の方が多くなっている。15歳以上では、いずれも1未満となっており、新登録結核患者数の方が多くなっている。

表5-6. 年次別・職業別 潜在性結核感染症（LTBI）新登録者数

（ ）内は構成比

区 分	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成29年/28年
総 数	7,147 (100.0)	7,562 (100.0)	6,675 (100.0)	7,477 (100.0)	7,255 (100.0)	1.0
看護師・保健師	1,277 (17.9)	1,164 (15.4)	896 (13.4)	940 (12.6)	856 (11.8)	0.9
医師	222 (3.1)	183 (2.4)	137 (2.1)	169 (2.3)	129 (1.8)	0.8
その他医療職・介護職	820 (11.5)	858 (11.3)	752 (11.3)	750 (10.0)	797 (11.0)	1.1
接客業等	228 (3.2)	214 (2.8)	218 (3.3)	206 (2.8)	148 (2.0)	0.7
教員・保育士	73 (1.0)	82 (1.1)	64 (1.0)	74 (1.0)	68 (0.9)	0.9
上記以外の常用勤労者	1,404 (19.6)	1,603 (21.2)	1,210 (18.1)	1,392 (18.6)	1,408 (19.4)	1.0
上記以外の臨時雇、日雇	253 (3.5)	253 (3.3)	223 (3.3)	359 (4.8)	271 (3.7)	0.8
上記以外の自営業・自由業	186 (2.6)	208 (2.8)	214 (3.2)	230 (3.1)	207 (2.9)	0.9
家事従事者	161 (2.3)	170 (2.2)	145 (2.2)	144 (1.9)	116 (1.6)	0.8
無職・その他	1,212 (17.0)	1,577 (20.9)	1,681 (25.2)	2,088 (27.9)	2,142 (29.5)	1.0
乳幼児	380 (5.3)	382 (5.1)	332 (5.0)	343 (4.6)	318 (4.4)	0.9
保育園、幼稚園児・小中学生	445 (6.2)	325 (4.3)	314 (4.7)	243 (3.2)	295 (4.1)	1.2
高校生以上の生徒学生等	332 (4.6)	418 (5.5)	287 (4.3)	410 (5.5)	339 (4.7)	0.8
不明	154 (2.2)	125 (1.7)	202 (3.0)	129 (1.7)	161 (2.2)	1.2

職業別では、全体の潜在性結核感染症新登録者数に占める医療職の割合が、前年の24.9%から24.6%に減少している。一方、無職・その他が全体に占める割合は、前年の27.9%から29.5%に増加しており、平成25年の17.0%から1.7倍の増加となっている。

表5-7. 年次別・年齢階級別 外国生まれ新登録結核患者数

() 内は新登録に占める割合)

区分	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年
総数	1,064 (5.2)	1,101 (5.6)	1,164 (6.4)	1,338 (7.6)	1,530 (9.1)
0～4歳	1 (3.7)	3 (17.6)	3 (10.3)	2 (7.7)	1 (3.2)
5～9歳	2 (14.3)	2 (13.3)	0 (0.0)	3 (27.3)	4 (40.0)
10～14歳	4 (16.0)	3 (17.6)	6 (46.2)	7 (31.8)	6 (33.3)
15～19歳	48 (29.1)	56 (33.3)	57 (35.0)	82 (43.2)	81 (54.7)
20～29歳	494 (41.3)	511 (43.0)	565 (50.1)	712 (57.7)	774 (62.9)
30～39歳	225 (17.1)	243 (19.7)	252 (22.9)	258 (25.7)	349 (35.4)
40～49歳	147 (9.8)	151 (10.5)	134 (9.8)	139 (11.3)	143 (12.3)
50～59歳	65 (3.9)	71 (4.7)	74 (5.5)	66 (5.1)	89 (7.0)
60～69歳	30 (1.1)	26 (1.0)	27 (1.1)	33 (1.5)	48 (2.4)
70～79歳	25 (0.6)	16 (0.4)	19 (0.5)	15 (0.4)	17 (0.5)
80歳以上	23 (0.3)	19 (0.3)	27 (0.4)	21 (0.3)	18 (0.3)

外国生まれ新登録結核患者数は、前年から192人増加して1,530人となり、新登録結核患者に占める割合は9.1%となっている。新登録患者数が最も増加したのは30～39歳であり、前年から91人増加し、349人となっている。また、20～29歳の新登録結核患者における外国生まれの者の割合も前年から5.2ポイント増加し、62.9%となっている。

表5-8. 年次別・年齢階級別 外国生まれ新登録結核患者数（入国5年以内、再掲）

() 内は全外国生まれ新登録患者に占める割合)

区分	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年
総数	432 (40.6)	437 (39.7)	505 (43.4)	608 (45.4)	738 (48.2)
0～4歳	1 (100.0)	1 (33.3)	2 (66.7)	1 (50.0)	1 (100.0)
5～9歳	2 (100.0)	2 (100.0)	0 (-)	0 (0.0)	3 (75.0)
10～14歳	4 (100.0)	1 (33.3)	3 (50.0)	5 (71.4)	2 (33.3)
15～19歳	28 (58.3)	37 (66.1)	33 (57.9)	44 (53.7)	54 (66.7)
20～29歳	303 (61.3)	301 (58.9)	351 (62.1)	432 (60.7)	491 (63.4)
30～39歳	62 (27.6)	60 (24.7)	79 (31.3)	89 (34.5)	140 (40.1)
40～49歳	15 (10.2)	20 (13.2)	17 (12.7)	20 (14.4)	28 (19.6)
50～59歳	3 (4.6)	6 (8.5)	11 (14.9)	11 (16.7)	5 (5.6)
60～69歳	8 (26.7)	8 (30.8)	1 (3.7)	2 (6.1)	12 (25.0)
70～79歳	4 (16.0)	1 (6.3)	6 (31.6)	4 (26.7)	2 (11.8)
80歳以上	2 (8.7)	0 (0.0)	2 (7.4)	0 (0.0)	0 (0.0)

外国生まれ新登録結核患者のうち、入国5年以内の者は、前年の608人から130人増加し738人となっている。特に20～29歳の年齢階級では、前年から59人増加し、491人となっている。

表 6 - 1. 年次別・年齢階級別 結核罹患率

(人口10万対)

区 分	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年
総 数	16.1	15.4	14.4	13.9	13.3
0～4歳	0.5	0.3	0.6	0.5	0.6
5～9歳	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2
10～14歳	0.4	0.3	0.2	0.4	0.3
15～19歳	2.7	2.8	2.8	3.1	2.5
20～29歳	9.1	9.2	9.0	9.8	9.8
30～39歳	7.9	7.7	7.1	6.5	6.6
40～49歳	8.3	7.8	7.5	6.5	6.1
50～59歳	10.8	9.8	8.8	8.4	8.1
60～69歳	15.4	14.3	13.1	12.0	11.4
70～79歳	31.4	28.4	26.9	24.5	22.0
80～89歳	76.2	72.5	66.0	60.8	55.5
90歳以上	95.6	95.7	92.0	96.3	92.7

年齢階級別の結核罹患率は、高齢層ほど高く、60～69歳で11.4、70～79歳で22.0、80～89歳で55.5、90歳以上では92.7となっている。

表 6 - 2. 年次別・年齢階級別 結核罹患率 (菌喀痰塗抹陽性肺結核患者、再掲)

区 分	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年
総 数	6.4	6.0	5.6	5.2	5.0
0～4歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5～9歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10～14歳	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
15～19歳	0.8	0.6	0.7	0.8	0.7
20～29歳	2.7	2.6	2.3	2.2	2.3
30～39歳	2.5	2.1	2.3	1.8	2.0
40～49歳	2.9	2.6	2.5	2.0	2.0
50～59歳	4.3	3.9	3.5	2.9	2.9
60～69歳	6.1	5.6	5.2	4.6	4.5
70～79歳	12.1	11.1	10.1	9.0	8.5
80～89歳	34.0	32.2	29.1	26.2	23.0
90歳以上	43.6	42.1	41.8	45.1	42.1

菌喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率も、同様に、高齢層ほど高くなっている。70歳代までは10未満だが、80～89歳で23.0、90歳以上では42.1となっている。

表7-1. 新登録結核患者数 都道府県別・年次推移

都道府県名	新登録結核患者数 (人)					備考	(再掲) 菌喀痰塗抹陽性肺結核患者数 (人)				
	25年	26年	27年	28年	29年		25年	26年	27年	28年	29年
全 国	20,495	19,615	18,280	17,625	16,789		8,119	7,651	7,131	6,642	6,359
北海道	553	568	533	518	461		207	228	216	163	170
青 森	176	185	182	171	154		91	76	81	72	67
岩 手	149	158	136	131	110		64	61	54	54	30
宮 城	223	209	198	185	167		90	89	75	87	54
秋 田	108	98	87	86	80		49	38	29	43	37
山 形	131	119	82	80	81	↑	53	61	27	22	35
福 島	228	185	188	163	138		109	81	83	61	62
茨 城	382	387	345	354	323		139	133	109	115	127
栃 木	231	252	229	218	228	↑	86	101	89	88	99
群 馬	228	204	192	183	184	↑	82	85	63	68	52
埼 玉	1,050	1,018	955	979	931		409	417	347	358	363
千 葉	921	876	878	906	757		335	331	315	312	270
東 京	2,671	2,533	2,306	2,340	2,213		1,006	927	877	848	807
神奈川	1,353	1,329	1,311	1,192	1,143		527	496	462	424	416
新 潟	269	214	232	216	190		98	74	100	81	72
富 山	152	131	125	117	118	↑	57	51	45	41	30
石 川	152	149	149	126	138	↑	57	50	65	41	56
福 井	109	108	72	87	90	↑	20	35	18	27	39
山 梨	65	77	73	72	68		21	33	28	28	31
長 野	194	170	175	165	168	↑	73	74	82	72	72
岐 阜	376	342	314	329	313		145	123	128	114	114
静 岡	560	510	442	425	424		226	200	173	179	148
愛 知	1,424	1,305	1,199	1,270	1,074		598	521	458	478	401
三 重	239	237	244	241	219		98	76	92	84	87
滋 賀	182	166	157	152	166	↑	74	62	68	55	57
京 都	456	498	376	410	410		192	191	149	155	172
大 阪	2,336	2,168	2,074	1,945	1,881		1,019	897	901	837	796
兵 庫	1,098	1,036	945	844	874	↑	456	416	388	331	313
奈 良	244	230	230	191	171		93	104	90	75	82
和歌山	202	190	150	131	139	↑	76	80	55	59	58
鳥 取	76	87	90	66	75	↑	23	32	34	24	30
島 根	110	95	102	87	73		44	28	38	24	31
岡 山	232	254	235	208	212	↑	83	96	99	83	88
広 島	383	386	324	324	321		168	143	139	120	122
山 口	227	163	187	178	171		89	68	66	45	53
徳 島	131	124	106	120	118		36	56	39	44	36
香 川	177	171	144	138	139	↑	66	67	51	58	55
愛 媛	171	188	167	133	147	↑	64	69	63	44	56
高 知	109	112	108	92	94	↑	56	49	36	39	38
福 岡	816	774	773	720	732	↑	300	291	279	242	280
佐 賀	149	127	135	106	102		64	53	65	49	47
長 崎	278	307	217	218	227	↑	106	99	78	79	71
熊 本	277	281	282	232	239	↑	104	100	104	98	80
大 分	228	203	199	185	147		106	86	100	88	66
宮 崎	157	169	161	143	120		81	89	87	66	46
鹿 児 島	261	281	257	245	233		96	117	99	94	76
沖 縄	251	241	214	203	226	↑	83	97	87	73	67
指定都市 (再掲)											
札 幌	188	190	183	160	158		63	64	67	46	47
仙 台	101	102	93	87	98	↑	44	42	34	37	31
さいたま	190	188	168	182	174		67	89	65	74	71
千 葉	149	154	157	158	128		56	52	63	57	57
横 浜	554	578	565	538	509		209	203	210	183	168
川 崎	270	229	226	249	217		109	93	64	85	92
相模原	109	96	79	57	70	↑	37	33	25	23	28
新 潟	81	78	86	79	77		37	26	38	30	33
静 岡	112	127	107	97	96		43	54	41	45	30
浜 松	142	122	78	105	88		52	48	34	41	29
名古屋	601	528	514	494	419		251	211	197	187	145
京 都	286	321	239	246	235		128	125	90	90	101
大 阪	1,058	988	925	887	880		488	456	412	394	368
堺	222	181	185	163	138		93	82	96	69	64
神 戸	369	330	328	285	302	↑	148	125	118	108	109
岡 山	72	92	81	77	80	↑	27	33	36	28	34
広 島	136	135	116	109	109		67	59	55	38	40
北九州	193	183	182	173	205	↑	71	76	66	60	88
福 岡	226	218	222	192	191		90	75	80	72	74
熊 本	96	98	125	85	82		40	35	37	29	22
東京都特別区	2,034	1,937	1,761	1,774	1,679		791	719	658	643	603

(注)備考欄において「↑」は29年の新登録数が28年を上回ったものを表す。

都道府県別の新登録結核患者数は、47都道府県のうち19の県で増加している。新登録結核患者数が最も多いのは東京都の2,213人で、次いで大阪府の1,881人となっている。

表7-2. 結核罹患率 都道府県別・年次推移

都道府県名	罹患率（人口10万対）					備考	（再掲）菌喀痰塗抹陽性肺結核罹患率（人口10万対）				
	25年	26年	27年	28年	29年		25年	26年	27年	28年	29年
全国	16.1	15.4	14.4	13.9	13.3		6.4	6.0	5.6	5.2	5.0
北海道	10.2	10.5	9.9	9.7	8.7		3.8	4.2	4.0	3.0	3.2
青森	13.2	14.0	13.9	13.2	12.0		6.8	5.8	6.2	5.6	5.2
岩手	11.5	12.3	10.6	10.3	8.8		4.9	4.7	4.2	4.3	2.4
宮城	9.6	9.0	8.5	7.9	7.2	○1	3.9	3.8	3.2	3.7	2.3
秋田	10.3	9.5	8.5	8.5	8.0	○4	4.7	3.7	2.8	4.3	3.7
山形	11.5	10.5	7.3	7.2	7.4	↑○3	4.6	5.4	2.4	2.0	3.2
福島	11.7	9.6	9.8	8.6	7.3	○2	5.6	4.2	4.3	3.2	3.3
茨城	13.0	13.3	11.8	12.2	11.2		4.7	4.6	3.7	4.0	4.4
栃木	11.6	12.7	11.6	11.1	11.7	↑	4.3	5.1	4.5	4.5	5.1
群馬	11.5	10.3	9.7	9.3	9.4	↑	4.1	4.3	3.2	3.5	2.7
埼玉	14.5	14.1	13.2	13.4	12.7		5.7	5.8	4.8	4.9	5.0
千葉	14.9	14.1	14.1	14.5	12.1		5.4	5.3	5.1	5.0	4.3
東京	20.1	18.9	17.1	17.2	16.1	△3	7.6	6.9	6.5	6.2	5.9
神奈川	14.9	14.6	14.4	13.0	12.5		5.8	5.5	5.1	4.6	4.5
新潟	11.5	9.3	10.1	9.4	8.4		4.2	3.2	4.3	3.5	3.2
富山	14.1	12.2	11.7	11.0	11.2	↑	5.3	4.8	4.2	3.9	2.8
石川	13.1	12.9	12.9	10.9	12.0	↑	4.9	4.3	5.6	3.6	4.9
福井	13.7	13.7	9.1	11.1	11.6	↑	2.5	4.4	2.3	3.5	5.0
山梨	7.7	9.2	8.7	8.7	8.3		2.5	3.9	3.4	3.4	3.8
長野	9.1	8.1	8.3	7.9	8.1	↑○5	3.4	3.5	3.9	3.4	3.5
岐阜	18.3	16.8	15.4	16.3	15.6		7.1	6.0	6.3	5.6	5.7
静岡	15.0	13.8	11.9	11.5	11.5	↑	6.1	5.4	4.7	4.9	4.0
愛知	19.1	17.5	16.0	16.9	14.3		8.0	7.0	6.1	6.4	5.3
三重	13.0	13.0	13.4	13.3	12.2		5.3	4.2	5.1	4.6	4.8
滋賀	12.9	11.7	11.1	10.8	11.8	↑	5.2	4.4	4.8	3.9	4.0
京都	17.4	19.1	14.4	15.7	15.8	↑	7.3	7.3	5.7	5.9	6.6
大阪	26.4	24.5	23.5	22.0	21.3	△1	11.5	10.2	10.2	9.5	9.0
兵庫	19.8	18.7	17.1	15.3	15.9	↑△4	8.2	7.5	7.0	6.0	5.7
奈良	17.6	16.7	16.8	14.1	12.7		6.7	7.6	6.6	5.5	6.1
和歌山	20.6	19.6	15.6	13.7	14.7	↑	7.8	8.2	5.7	6.2	6.1
鳥取	13.2	15.2	15.7	11.6	13.3	↑	4.0	5.6	5.9	4.2	5.3
島根	15.7	13.6	14.7	12.6	10.7		6.3	4.0	5.5	3.5	4.5
岡山	12.0	13.2	12.2	10.9	11.1	↑	4.3	5.0	5.2	4.3	4.6
広島	13.5	13.6	11.4	11.4	11.3		5.9	5.0	4.9	4.2	4.3
山口	16.0	11.6	13.3	12.8	12.4		6.3	4.8	4.7	3.2	3.8
徳島	17.0	16.2	14.0	16.0	15.9	△5	4.7	7.3	5.2	5.9	4.8
香川	18.0	17.4	14.7	14.2	14.4	↑	6.7	6.8	5.2	6.0	5.7
愛媛	12.2	13.5	12.1	9.7	10.8	↑	4.6	4.9	4.5	3.2	4.1
高知	14.6	15.2	14.8	12.8	13.2	↑	7.5	6.6	4.9	5.4	5.3
福岡	16.0	15.2	15.1	14.1	14.3	↑	5.9	5.7	5.5	4.7	5.5
佐賀	17.7	15.2	16.2	12.8	12.4		7.6	6.3	7.8	5.9	5.7
長崎	19.9	22.1	15.7	15.9	16.8	↑△2	7.6	7.1	5.7	5.8	5.2
熊本	15.4	15.7	15.8	13.1	13.5	↑	5.8	5.6	5.8	5.5	4.5
大分	19.3	17.3	17.1	16.0	12.8		9.0	7.3	8.6	7.6	5.7
宮崎	14.0	15.2	14.6	13.0	11.0		7.2	8.0	7.9	6.0	4.2
鹿児島	15.5	16.8	15.6	15.0	14.3		5.7	7.0	6.0	5.7	4.7
沖縄	17.7	17.0	14.9	14.1	15.7	↑	5.9	6.8	6.1	5.1	4.6
指定都市（再掲）											
札幌	9.7	9.8	9.4	8.2	8.0		3.3	3.3	3.4	2.3	2.4
仙台	9.5	9.5	8.6	8.0	9.0	↑	4.1	3.9	3.1	3.4	2.9
さいたま	15.2	14.9	13.2	14.2	13.5		5.4	7.1	5.1	5.8	5.5
千葉	15.5	15.9	16.1	16.2	13.1		5.8	5.4	6.5	5.9	5.8
横浜	15.0	15.6	15.2	14.4	13.6		5.6	5.5	5.6	4.9	4.5
川崎	18.6	15.7	15.3	16.7	14.4		7.5	6.4	4.3	5.7	6.1
相模原	15.1	13.3	11.0	7.9	9.7	↑	5.1	4.6	3.5	3.2	3.9
新潟	10.0	9.7	10.6	9.8	9.6		4.6	3.2	4.7	3.7	4.1
静岡	15.8	18.0	15.2	13.7	13.6		6.1	7.6	5.8	6.3	4.2
浜松	17.9	15.4	9.8	13.2	11.1		6.6	6.1	4.3	5.1	3.6
名古屋	26.5	23.2	22.4	21.4	18.1		11.1	9.3	8.6	8.1	6.3
京都	19.4	21.8	16.2	16.7	16.0		8.7	8.5	6.1	6.1	6.9
大阪	39.4	36.8	34.4	32.8	32.4		18.2	17.0	15.3	14.6	13.6
堺	26.4	21.5	22.0	19.5	16.5		11.1	9.8	11.4	8.2	7.7
神戸	24.0	21.5	21.3	18.6	19.7	↑	9.6	8.1	7.7	7.0	7.1
岡山	10.1	12.9	11.4	10.9	11.3	↑	3.8	4.6	5.1	4.0	4.8
広島	11.5	11.4	9.7	9.1	9.1		5.7	5.0	4.6	3.2	3.3
北九州	19.9	19.0	18.9	18.1	21.6	↑	7.3	7.9	6.9	6.3	9.3
福岡	15.0	14.3	14.4	12.4	12.2		6.0	4.9	5.2	4.6	4.7
熊本	13.0	13.2	16.9	11.5	11.1		5.4	4.7	5.0	3.9	3.0
東京都特別区	22.5	21.2	19.1	18.9	17.8		8.7	7.9	7.1	6.9	6.4

注1) 備考欄において「↑」は28年の罹患率が27年を上回ったもの、「○1」は罹患率下位1位を、「△1」は罹患率上位1位を表す。

注2) 太枠は平成29年の罹患率が結核低まん延の水準である10を下回った都道府県および政令指定都市。

都道府県別の結核罹患率は、47都道府県のうち21の府県で増加している。一方、結核低まん延の水準である罹患率が10を下回った県は、前年と同数の10県となっている。最も低い宮城県は7.2となっている。

表8. 年末時結核登録者数及び有病率の年次推移

区 分	総数／前年比		活 動 性 全 結 核			
			患者数／前年比		有病率(人口10万対) /前年比	
平成 6年	181,470	△10,114	70,781	△5,894	56.6	△4.9
平成 7年	168,581	△12,889	65,167	△5,614	51.9	△4.7
平成 8年	132,958	△35,623	59,760	△5,407	47.5	△4.4
平成 9年	121,762	△11,196	55,409	△4,351	43.9	△3.6
平成10年	107,058		49,205		38.9	
平成11年	104,813	△2,245	48,888	△317	38.6	△0.3
平成12年	99,481	△5,332	41,971	△6,917	33.1	△5.5
平成13年	91,395	△8,086	36,288	△5,683	28.5	△4.6
平成14年	82,974	△8,421	32,396	△3,892	25.4	△3.1
平成15年	77,211	△5,763	29,717	△2,679	23.3	△2.1
平成16年	72,079	△5,132	26,945	△2,772	21.1	△2.2
平成17年	68,508	△3,571	23,969	△2,976	18.8	△2.3
平成18年	65,695	△2,813	21,976	△1,993	17.2	△1.6
平成19年	63,556	△2,139	20,637	△1,339	16.2	△1.0
平成20年	62,244	△1,312	20,021	△ 616	15.7	△0.5
平成21年	59,573	△2,671	18,915	△1,106	14.8	△0.9
平成22年	55,573	△4,000	17,927	△988	14.0	△0.8
平成23年	55,196	△377	17,264	△663	13.5	△0.5
平成24年	52,173	△3,023	14,858	△2,406	11.7	△1.8
平成25年	49,814	△2,359	13,957	△901	11.0	△0.7
平成26年	47,845	△1,969	13,513	△444	10.6	△0.4
平成27年	44,888	△2,957	12,534	△979	9.9	△0.7
平成28年	42,299	△2,589	11,717	△817	9.2	△0.7
平成29年	39,670	△2,629	11,097	△620	8.8	△0.4

平成29年末現在の結核登録者数は39,670人と、前年の42,299人より2,629人減少している。そのうち、活動性全結核の患者数は11,097人と、前年より620人減少している。また、平成29年末の結核有病率は、前年の9.2から0.4減少し、8.8となっている。

表9. 年次別 前回治療開始年代別再治療者数（割合）

前回治療開始年	2013年登録者	2014年登録者	2015年登録者	2016年登録者	2017年登録者
総数	1,262 (100%)	1,179 (100%)	1,032 (100%)	908 (100%)	839 (100%)
1940年代以前	106 (8.4)	101 (8.6)	63 (6.1)	61 (6.7)	46 (5.5)
1950年代	177 (14.0)	136 (11.5)	154 (14.9)	123 (13.5)	106 (12.6)
1960年代	76 (6.0)	82 (7.0)	74 (7.2)	50 (5.5)	61 (7.3)
1970年代	56 (4.4)	46 (3.9)	30 (2.9)	30 (3.3)	28 (3.3)
1980年代	38 (3.0)	39 (3.3)	23 (2.2)	29 (3.2)	29 (3.5)
1990年代	66 (5.2)	71 (6.0)	66 (6.4)	48 (5.3)	43 (5.1)
2000年代	277 (21.9)	236 (20.0)	169 (16.4)	137 (15.1)	94 (11.2)
2010年代以降	466 (36.9)	468 (39.7)	453 (43.9)	430 (47.4)	432 (51.5)
（再掲）2010年代の再治療者数					
2010年	90 (19.3)	56 (12.0)	43 (9.5)	28 (6.5)	33 (7.6)
2011年	152 (32.6)	88 (18.8)	37 (8.2)	32 (7.4)	18 (4.2)
2012年	171 (36.7)	136 (29.1)	73 (16.1)	45 (10.5)	25 (5.8)
2013年	53 (11.4)	158 (33.8)	119 (26.3)	76 (17.7)	40 (9.3)
2014年	-	30 (6.4)	141 (31.1)	94 (21.9)	64 (14.8)
2015年	-	-	40 (8.8)	113 (26.3)	103 (23.8)
2016年	-	-	-	42 (9.8)	113 (26.2)
2017年	-	-	-	-	36 (8.3)

（注）前回治療開始年は、登録情報あるいは本人・家族等への問診による。
 対象は 2013～2017年新登録者で治療歴が再治療の患者。前回治療年が今回の登録年に近い者には、「登録中の再登録」による者が多いと推察される。

平成29年新登録結核患者のうちの再治療者は、前年の908人から69人減少して839人となっている。このうち、前回治療年が2000年以降の者は526人で、さらに2010年以降の者が432人と再治療者のうち51.5%となっている。

表10-1. 発病から初診までの期間が2か月以上の割合

有症状肺結核

	発病～初診までの期間が 2か月以上の割合(%)
平成14年	19.3
平成15年	18.8
平成16年	18.8
平成17年	18.2
平成18年	19.4
平成19年	18.0
平成20年	18.2
平成21年	17.9
平成22年	18.3
平成23年	18.6
平成24年	18.7
平成25年	18.1
平成26年	18.8
平成27年	20.0
平成28年	19.7
平成29年	20.8

(再掲) 30-59歳有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核

	発病～初診までの期間が 2か月以上の割合(%)
平成14年	34.2
平成15年	32.3
平成16年	31.6
平成17年	31.4
平成18年	33.2
平成19年	32.1
平成20年	32.3
平成21年	30.7
平成22年	32.6
平成23年	32.9
平成24年	33.7
平成25年	31.5
平成26年	38.0
平成27年	37.1
平成28年	33.3
平成29年	35.0

平成29年の新登録肺結核患者のうち有症状の者の中で、受診が遅れた（症状発現から受診までの期間が2か月以上）患者の割合は、20.8%となり、平成14年以降で最高となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、受診が遅れた患者の割合は35.0%となっている。

表10-2. 初診から診断（登録）までの期間が1か月以上の割合

有症状肺結核

	初診～診断までの期間が 1か月以上の割合(%)
平成14年	27.2
平成15年	26.0
平成16年	25.0
平成17年	25.7
平成18年	24.3
平成19年	21.7
平成20年	19.9
平成21年	20.4
平成22年	22.6
平成23年	22.7
平成24年	22.0
平成25年	22.1
平成26年	21.6
平成27年	21.5
平成28年	22.0
平成29年	21.7

(再掲) 30-59歳有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核

	初診～診断までの期間が 1か月以上の割合(%)
平成14年	15.1
平成15年	14.6
平成16年	14.1
平成17年	14.6
平成18年	13.9
平成19年	13.2
平成20年	10.6
平成21年	10.9
平成22年	13.6
平成23年	14.8
平成24年	15.0
平成25年	13.9
平成26年	13.7
平成27年	13.6
平成28年	16.1
平成29年	14.7

平成14年～18年までは初診から登録までの期間、平成19年以降は初診から診断までの期間

診断が遅れた（受診から結核の診断までの期間が1か月以上）患者の割合は、21.7%となっている。

表10-3. 発病から診断（登録）までの期間が3か月以上の割合

有症状肺結核

	発病～診断までの期間が 3か月以上の割合(%)
平成14年	21.5
平成15年	21.0
平成16年	20.3
平成17年	19.7
平成18年	20.7
平成19年	18.5
平成20年	18.1
平成21年	18.2
平成22年	19.6
平成23年	19.4
平成24年	19.6
平成25年	18.7
平成26年	19.0
平成27年	20.4
平成28年	19.6
平成29年	21.2

(再掲) 30-59歳有症状菌陰性肺結核

	発病～診断までの期間が 3か月以上の割合(%)
平成14年	30.3
平成15年	29.3
平成16年	28.2
平成17年	28.7
平成18年	29.5
平成19年	26.9
平成20年	27.0
平成21年	26.9
平成22年	28.4
平成23年	29.8
平成24年	30.5
平成25年	29.0
平成26年	32.9
平成27年	35.5
平成28年	32.6
平成29年	33.6

平成14年～18年までは発病から登録までの期間、平成19年以降は発病から診断までの期間

発見が遅れた（症状発現から結核の診断までの期間が3か月以上）患者の割合は、21.2%となっている。

表11. 年次別 新登録肺結核培養陽性結核患者の薬剤感受性検査結果

() 内は構成比

区 分	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
新登録肺結核患者数	15,972	15,149	14,123	13,608	13,011
培養陽性患者数	10,523 (100.0)	10,259 (100.0)	10,035 (100.0)	9,878 (100.0)	9,580 (100.0)
INH, RFP両剤耐性	47 (0.4)	56 (0.5)	48 (0.5)	49 (0.5)	52 (0.5)
(再掲) INH, RFP両剤耐性のうち外国出生患者	15	19	16	15	24
上記以外でINH耐性含む	322 (3.1)	293 (2.9)	324 (3.2)	320 (3.2)	331 (3.5)
上記以外でRFP耐性含む	17 (0.2)	20 (0.2)	29 (0.3)	25 (0.3)	28 (0.3)
その他耐性	371 (3.5)	380 (3.7)	366 (3.6)	347 (3.5)	442 (4.6)
HRSEすべてに感受性	6,890 (65.5)	6,844 (66.7)	6,806 (67.8)	6,939 (70.2)	6,981 (72.9)
HR感受性その他不明	54 (0.5)	52 (0.5)	57 (0.6)	52 (0.5)	57 (0.6)
未実施・他・不明	2,822 (26.8)	2,614 (25.5)	2,405 (24.0)	2,146 (21.7)	1,689 (17.6)
(再掲)薬剤感受性検査結果判明者	7,701 (73.2)	7,645 (74.5)	7,630 (76.0)	7,732 (78.3)	7,891 (82.4)
(再掲) 薬剤感受性検査結果判明者					
培養陽性患者数	7,701 (100.0)	7,645 (100.0)	7,630 (100.0)	7,732 (100.0)	7,891 (100.0)
INH, RFP両剤耐性	47 (0.6)	56 (0.7)	48 (0.6)	49 (0.6)	52 (0.7)
上記以外でINH耐性含む	322 (4.2)	293 (3.8)	324 (4.2)	320 (4.1)	331 (4.2)
上記以外でRFP耐性含む	17 (0.2)	20 (0.3)	29 (0.4)	25 (0.3)	28 (0.4)
その他耐性	371 (4.8)	380 (5.0)	366 (4.8)	347 (4.5)	442 (5.6)
HRSEすべてに感受性	6,890 (89.5)	6,844 (89.5)	6,806 (89.2)	6,939 (89.7)	6,981 (88.5)
HR感受性その他不明	54 (0.7)	52 (0.7)	57 (0.7)	52 (0.7)	57 (0.7)

INH, RFP両剤感受性検査結果判明者を薬剤感受性検査結果判明とした。

平成29年の新登録肺結核培養陽性結核患者9,580人のうち、薬剤感受性検査結果が判明した者は7,891人で、割合は82.4%となり、初めて80%を越えた値となっている。このうち、多剤耐性肺結核患者数(INH, RFP両剤耐性の者)は52人で、前年より3人増加となっている。新登録肺結核培養陽性結核患者の多剤耐性結核割合は0.5%となっている。また、薬剤感受性検査結果が判明した者のうち、主要4剤(HRSE)全ての薬剤に対し感受性のある患者の割合は88.5%となっている。

表12. 年次別 新登録結核患者の糖尿病合併あるいはHIV感染

(() 内は構成比)

区 分	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
新登録結核患者数	20,495 (100.0)	19,615 (100.0)	18,280 (100.0)	17,625 (100.0)	16,789 (100.0)
糖尿病ありの者	2,964 (14.5)	2,753 (14.0)	2,686 (14.7)	2,509 (14.2)	2,368 (14.1)
なしの者	15,010 (73.2)	14,536 (74.1)	13,472 (73.7)	13,277 (75.3)	12,576 (74.9)
不明の者	2,521 (12.3)	2,326 (11.9)	2,122 (11.6)	1,839 (10.4)	1,845 (11.0)
HIV検査実施陽性者	50 (0.2)	45 (0.2)	40 (0.2)	44 (0.2)	34 (0.2)
HIV検査実施陰性者	1,890 (9.2)	1,627 (8.3)	1,474 (8.1)	1,556 (8.8)	1,454 (8.7)
HIV検査未実施者	5,090 (24.8)	4,970 (25.3)	4,697 (25.7)	4,933 (28.0)	4,753 (28.3)
不明の者	13,465 (65.7)	12,973 (66.1)	12,069 (66.0)	11,092 (62.9)	10,548 (62.8)

平成29年の新登録結核患者のうち、糖尿病合併患者は2,368人で、新登録結核患者の14.1%となっている。また、HIV検査を実施した患者は1,488人で、新登録結核患者の8.9%にあたり、このうちHIV陽性は34人で、新登録結核患者の0.2%となっている。

表13-1. 年次別 医療従事者の新登録結核患者数 (看護師・保健師)

(() 内は新登録に占める割合)

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
総 数	234 (1.1)	249 (1.3)	219 (1.2)	191 (1.1)	216 (1.3)
15～19歳	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
20～29歳	41 (3.4)	48 (4.0)	32 (2.8)	24 (1.9)	46 (3.7)
30～39歳	59 (4.5)	84 (6.8)	63 (5.7)	53 (5.3)	59 (6.0)
40～49歳	76 (5.1)	60 (4.2)	61 (4.5)	47 (3.8)	54 (4.7)
50～59歳	47 (2.8)	44 (2.9)	47 (3.5)	44 (3.4)	43 (3.4)
60～69歳	8 (0.3)	12 (0.5)	15 (0.6)	18 (0.8)	14 (0.7)
70～79歳	2 (0.0)	1 (0.0)	1 (0.0)	4 (0.1)	0 (0.0)
80歳以上	1 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)

平成29年の新登録結核患者のうち、看護師・保健師からの登録患者は216人で、昨年の191人から25人の増加となっている。新登録結核患者のうちの割合は1.3%となっている。年齢階級別では、30～39歳の層が最も多く、同年齢階級新登録結核患者の6.0%となっている。

表13-2. 年次別 医療従事者の新登録結核患者数（医師）

（ ）内は新登録に占める割合

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
総数	66 (0.3)	47 (0.2)	61 (0.3)	40 (0.2)	38 (0.2)
20～29歳	10 (0.8)	3 (0.3)	9 (0.8)	3 (0.2)	4 (0.3)
30～39歳	12 (0.9)	9 (0.7)	12 (1.1)	3 (0.3)	6 (0.6)
40～49歳	12 (0.8)	10 (0.7)	9 (0.7)	8 (0.7)	6 (0.5)
50～59歳	11 (0.7)	7 (0.5)	12 (0.9)	5 (0.4)	7 (0.6)
60～69歳	7 (0.2)	6 (0.2)	7 (0.3)	8 (0.4)	4 (0.2)
70～79歳	8 (0.2)	5 (0.1)	5 (0.1)	4 (0.1)	6 (0.2)
80歳以上	6 (0.1)	7 (0.1)	7 (0.1)	9 (0.1)	5 (0.1)

平成29年の新登録結核患者のうち、医師の登録患者は38人で、新登録結核患者の0.2%となっている。年齢階級別の割合では、30～59歳で、同年齢階級新登録結核患者の0.5～0.6%となっている。

表13-3. 年次別 医療従事者の新登録結核患者数（その他）

（ ）内は新登録に占める割合

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
総数	281 (1.4)	255 (1.3)	264 (1.4)	231 (1.3)	280 (1.7)
15～19歳	2 (1.2)	0 (0.0)	1 (0.6)	1 (0.5)	3 (2.0)
20～29歳	49 (4.1)	46 (3.9)	48 (4.3)	36 (2.9)	39 (3.2)
30～39歳	67 (5.1)	55 (4.5)	62 (5.6)	52 (5.2)	64 (6.5)
40～49歳	59 (3.9)	60 (4.2)	61 (4.5)	63 (5.1)	66 (5.7)
50～59歳	69 (4.1)	56 (3.7)	53 (3.9)	44 (3.4)	61 (4.8)
60～69歳	29 (1.0)	27 (1.0)	29 (1.2)	28 (1.3)	34 (1.7)
70～79歳	2 (0.0)	9 (0.2)	9 (0.2)	7 (0.2)	11 (0.3)
80歳以上	4 (0.1)	2 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.0)

(注)その他:理学療法士、作業療法士、検査技師、放射線技師等および介護職。
看護師・保健師・医師以外の医療機関に勤務する感染リスクの高い者

平成29年の新登録結核患者のうち、理学療法士、作業療法士、検査技師、放射線技師など、看護師・保健師・医師以外の者で医療機関に勤務する者の登録患者数は280人で昨年の231人から49人の増加となり、新登録結核患者のうちの割合は1.7%となっている。年齢階級別では、30～39歳における割合が最も大きく、同年齢階級新登録結核患者の6.5%となっている。

表14-1. 年次別 無職臨時日雇等の新登録結核患者数

() 内は新登録に占める割合)

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
合 計	1,440 (25.4)	1,280 (23.8)	1,172 (23.7)	1,105 (23.2)	878 (18.9)
20～24歳	72 (13.4)	81 (14.6)	72 (13.7)	66 (10.5)	44 (7.2)
25～29歳	107 (16.2)	103 (16.2)	86 (14.3)	96 (15.9)	89 (14.3)
30～34歳	123 (19.2)	104 (17.0)	95 (18.4)	98 (19.0)	90 (17.8)
35～39歳	145 (21.4)	133 (21.3)	107 (18.3)	97 (19.9)	86 (17.8)
40～44歳	196 (24.8)	157 (21.9)	161 (23.2)	137 (24.0)	105 (20.0)
45～49歳	198 (28.1)	196 (27.1)	179 (26.7)	187 (28.5)	141 (22.2)
50～54歳	245 (31.5)	226 (31.8)	202 (31.3)	175 (29.1)	148 (24.2)
55～59歳	354 (40.0)	280 (34.9)	270 (38.3)	249 (35.9)	175 (26.7)

(注) 無職臨時日雇等：接客業、医療従事者、他の常用勤労者・自営業等、家事従事者、学生を除く。合計は20歳～59歳の計。

表14-2. 年次別 無職臨時日雇等の新登録結核患者数(男性、再掲)

() 内は新登録に占める割合)

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
合 計	830 (24.3)	734 (22.7)	699 (23.5)	613 (21.3)	507 (18.3)
20～24歳	33 (10.9)	38 (12.4)	38 (13.0)	44 (11.5)	29 (8.5)
25～29歳	44 (13.4)	39 (11.7)	39 (12.1)	37 (11.5)	44 (13.2)
30～34歳	54 (15.7)	44 (13.7)	33 (11.7)	41 (15.2)	35 (13.6)
35～39歳	62 (16.9)	75 (21.3)	56 (17.3)	43 (15.7)	31 (12.1)
40～44歳	106 (21.9)	82 (18.1)	89 (22.2)	69 (20.8)	53 (17.4)
45～49歳	130 (29.1)	120 (26.5)	116 (26.4)	110 (27.1)	91 (22.5)
50～54歳	161 (30.5)	141 (30.7)	126 (30.1)	109 (26.7)	111 (25.2)
55～59歳	240 (38.6)	195 (34.8)	202 (40.8)	160 (33.5)	113 (25.9)

(注) 無職臨時日雇等：接客業、医療従事者、他の常用勤労者・自営業等、家事従事者、学生を除く。合計は20歳～59歳の計。

平成29年の新登録結核患者のうち、登録時の年齢が20～59歳であり、登録時の職業が無職臨時日雇等であった者は878人で、昨年の1,105人から227人減少している。新登録結核患者のうちの割合も18.9%となっている。年齢階級別での患者数は、高齢層ほど多くなっており、55～59歳では、同年齢階級の26.7%を占めている。また、男性の患者に占める無職臨時日雇等の者の割合は55～59歳が最も割合が大きく、25.9%となっているが、昨年から7.6ポイント減少している。